

令和8年度 全国学力・学習状況調査及び市総合学力調査
指導改善のポイント（小学校国語）

1 主な結果の概要

○相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話の構成を考えることは概ね身につけている。

△漢字を文の中で正しく使う力に課題がある。

△文章を読んで理解し、自分の考えをまとめる力に課題がある。

△出題形式においては「記述式」で課題が見られる。

2 課題のあった主な設問（全国学力・学習状況調査）

【大問2三（イ）】 【文章の一部】の下線部を漢字を使って書き直す。

暑いときは、そでが ア みじかい 方がすずしいのではないか。

なぜ、長そでの服を着ているのか イ ふしぎ に思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

【正答】

不思議

【四街道市で多かった誤答】

2、3

- ・ 2 「不」「思」と解答しているが、「議」と解答していない
- ・ 3 「不」「議」と解答しているが、「思」と解答していない

三 花山さんは、「花山さんの文章の一部」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた
ましよう。部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の部ア、イを漢字でいいねに書き

3 指導改善のポイント

領域別指導の重点

- ・ 漢字の読み書きや文法について、文章の中での意味や使い方を確認するとともに、短文作成や音読などを通して繰り返し活用する活動を取り入れる必要がある。
- ・ 文章や資料、話し合いの内容を関連付けて必要な情報を整理し、目的や相手を意識しながら、表現の工夫や効果を考えて文章を書き直したり伝え合ったりする活動を取り入れる必要がある。
- ・ 文章を読んで理解したことを基に自分の経験に置き換えて考えるようにする必要がある。自分の経験と関わりのある筆者の事例を取捨選択し、自分の経験とどのような関係があるかを整理し筆者の考え方と自分の考えを関連させながら再構成していくため、筆者の考えに共感するのか、違う考えなのか、これまでにない考えなのかを考えながら読むようにする必要がある。

学習形態

- ・ 音読、線引き、抜き出し、メモなどの学習活動を授業の中に位置付け、児童が目的をもって主体的に学習に取り組む態度を育成する必要がある。
- ・ 学習教材を声に出して読み、本時の学習内容を知ることによって自分の課題を理解し、主体的に学習に取り組む態度を育成する必要がある。
- ・ 一人で考える時間を確保した上で、話し合いや発表を通して考えを共有し、多様な考え方に触れながら理解を深める学習活動を充実させることが重要である。
- ・ 自分の考えや感じたことについて、本文や資料のどの部分を根拠にしたのかを、ペアやグループで説明し合う活動を通して、根拠を基に伝え合う力を育成する必要がある。
- ・ 教科書内の語句、用語等は日頃使うことのないことが多いため、言葉を正しく理解するところから文章の正しい読みとりにつながるため、学級全体で共通理解する必要がある。

授業展開や図書館との連携

- ・ 教科書に出てくる言葉や語句について、意味や使い方を文脈の中で理解できるよう、継続的に指導する必要がある。
- ・ 自分の考えが相手に伝わるように表現を工夫したり、自分の考えをまとめたりできるようにする必要がある。文章の型や手順を追って終わる授業ではなく、相手や状況、目的、意図や効果を意識し、相手によりよく伝わる表現を工夫できる学習指導の充実が重要である。
- ・ 学校図書館や学校司書と連携し、多様な本や資料に触れる機会を確保することで、児童の読書活動や情報を活用する力の育成につなげることが重要である。

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査及び市総合学力調査
指導改善のポイント（小学校算数）

1 主な結果の概要

○基礎的な計算技能が概ね身についている。

○伴ってかわる 2 つの数量の関係に着目し、グラフや表から必要な数量を見いだすことができている。

△根拠となる理由や求め方を式や言葉を用いて記述することに課題がある。

△単位量当たりの大きさや割合の意味を理解し、2 つの数量の商を求めることに課題がある。

△二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題がある。

2 課題のあった主な設問（全国学力・学習状況調査）

【大問 1（3）】

1 立方センチメートルの立方体を 36 個使ってできた直方体の体積を書く。

1 立方体や直方体について考えます。

(3) 1 cm^3 の立方体が 36 個あります。36 個をすべて使って、高さが 4 cm の直方体を 1 つ作りました。

その直方体の体積は何 cm^3 ですか。

答えを書きましょう。

(正答の条件)
36 と解答しているもの。

四街道市で多かった誤答例

- ・ 1 4 4
- ・ 9
- ・ 36、1 4 4 以外の 4 の倍数

3 指導改善のポイント

児童の実態把握と単元構想

- ・各単元の導入および節目において、情意面（学習意欲や学びへの実感）や既習事項の定着状況を多面的に見取り、児童のレディネスに応じた指導方法や柔軟な学習形態を計画的に実行していくことが重要である。
- ・指導者が領域間・学年間を見通した系統的・構造的なカリキュラム理解を深め、児童自身が単元を貫く「見方・考え方」のつながりを自覚できる単元構想を推進することが重要である。

授業展開と学習形態

- ・児童の知的好奇心や課題意識を引き出すため、実物提示や ICT 機器、視覚教材を効果的に組み込み、問題場面の本質を直感的に捉えさせる導入を工夫することが大切である。
- ・「本時のめあて」と「まとめ・振り返り」が連動する構造的な板書を構築し、児童が学習の足跡を辿りながら自らの言葉で学びを言語化できる力を養うことが重要である。
- ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、習熟度に応じた個別支援やペア・グループでの学び合いの場면을意図的に位置付け、集団全体の学力底上げと確実な定着を図ることが大切である。

「思考力・判断力・表現力」の育成

- ・課題解決に向けた「見通し」を学級全体で明確にした上で、じっくり思考を深める自力解決の時間を保障し、根拠をもった自らの考えを確立させることが重要である。
- ・協働的な対話活動において、交流の目的や着目すべき観点を明確に設定するとともに、図・表・数式などを適切に活用した説得力のある数学的表現力を育成することが重要である。

領域別指導の重点

- ・「数と計算」において、数の概念や計算の意味・性質に対する深い理解を基盤とし、四則計算の確実な習熟を図るとともに、他者へ筋道立てて説明する表現力を育むことが大切である。
- ・「図形」において、具体物の操作、観察、ICT による動的シミュレーション等の体験的な活動を通して、図形の構成要素や性質への着目を促し、見通しをもった作図・求積や、根拠を明確にした論理的な思考・説明力を培うことが大切である。

令和8年度 全国学力・学習状況調査及び市総合学力調査
指導改善のポイント（中学校国語）

1 主な結果の概要

- 文章の中心的な部分と付加的な部分について、叙述を基に捉えることができる。
- △目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することに課題がある。
- △複数の意見を参考にしながら、自分の考えをまとめて表現することに課題がある。
- △文章表現の工夫や効果について考え、自らの文章表現に生かすことに課題がある。

2 課題のあった主な設問（全国学力・学習状況調査）

【大問4二】 国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す。

（中田智子「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」による。）

二 林さんは、――線部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。次の【国語辞典に載っていた意味】を読むと、**6**段落に「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現がいくつかあることに気が付きました。【国語辞典に載っていた意味】を参考にして、それらの表現のうちどれか一つを**6**段落の中から抜き出さない。

【国語辞典に載っていた意味】

ほうふつ 【彷彿】 ①はつきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。②おぼろげなさま。はつきりしないさま。

【正答】 次のいずれかのように解答しているもの。

- ・ 「ありありと映し出している」
 - ・ 「心に思い描く」
 - ・ 「包括的に含んだイメージを得る」
- 右記、解答について、本文中の前後の語句を含んで抜き出したり、一部だけを抜き出したりして、解答しているもの。

【四街道市で多かった誤答】

- ・ 本文中から、正答以外の表現を抜き出して、解答しているもの
- ・ 無回答

3 指導改善のポイント

領域別指導の重点

- ・文章の内容を正しく捉えたり、必要な情報を関連付けて考えたりすることができるよう、文章全体と部分との関係を意識して読む活動を充実させることが重要である。また、文章中の叙述を基に内容を整理し、自分の考えを形成する学習活動を取り入れる必要がある。さらに、目的に応じて必要な情報に着目し、内容を解釈する力を育成していくことが重要である。
- ・目的や条件に応じて自分の考えを適切に表現することができるよう、考えとその根拠を関連付けながら書く活動を充実させることが重要である。また、文章の構成を意識しながら、自分の考えをまとめたり書き直したりする活動を継続的に取り入れる必要がある。さらに、複数の情報や意見を参考にしながら、自分の考えをまとめて表現する力を育成していくことが重要である。
- ・条件に応じて記述したり、自分の考えを根拠とともに文章で表現したりする活動を充実させることが重要である。また、表現のよさや改善点について考え、それらを自らの文章表現に生かすことができるよう指導する必要がある。

学習形態

- ・他者の考えや表現に触れながら、自分の考えを見直したり深めたりする学習場面を設定することが重要である。
- ・自分の考えをまとめる際には、考えとその根拠を区別して整理し、それらを関連付けて表現する活動を継続的に取り入れる必要がある。
- ・ICTを活用して考えや根拠を共有・可視化し、生徒同士が互いの考えを比較・検討する場面を設定することが重要である。

授業展開や図書館との連携

- ・学習の目的や意義を理解し、自ら課題を見いだして学習に取り組むことができるよう、既習事項や生活経験と関連付けながら学習を進めることが重要である。
- ・文章を読む際には、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら考えを形成する場面を設定し、自分の考えを深めることができるようにする必要がある。また、考えと根拠との関係を意識して表現する機会を設けることが重要である。
- ・学校図書館や学校司書と連携し、多様な文章や資料に触れる機会を確保することで、読書活動の充実や情報を活用する力の育成につなげることが重要である。

令和8年度 全国学力・学習状況調査及び市総合学力調査
指導改善のポイント（中学校数学）

1 主な結果の概要

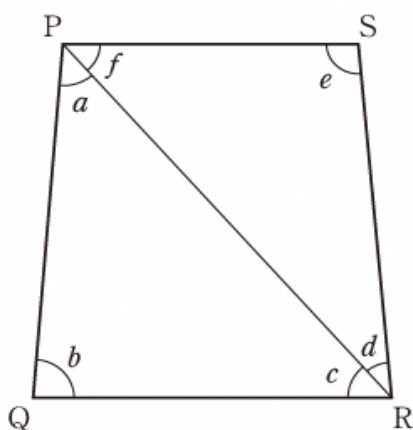
- 図形や確率の基礎的な知識は概ね身に付いている。
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができている。
- △少数を含む四則計算や方程式等の基礎的な計算技能に課題がある。
- △考えた理由や問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- △記述式の問題について、正答率が低く、無解答率が高い。

2 課題のあった主な設問（全国学力・学習状況調査）

【大問3】

四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く。

3 下の図は、四角形PQRSに対角線PRをひいたものです。



上の図において、 $\angle a$ から $\angle f$ までの6つの角のうち、ある2つの角の大きさが等しければ、 $PS \parallel QR$ であるといえます。その2つの角を書きなさい。

(正答の条件)
 $\angle c$ と $\angle f$ を解答しているもの

四街道市で多かった誤答例

- ・ $\angle b$ と $\angle e$ を解答しているもの
- ・ 解答類型にない解答を書いている。

3 指導改善のポイント

生徒の実態把握と単元構想

- ・各単元の導入や節目において、学習に対する関心・意欲や既習事項の定着度を的確に把握し、単元構成に応じた指導形態・手立ての柔軟な見直しを図ることが重要である。

授業展開と学習形態

- ・既習事項との相違点や生徒自身の素朴な疑問を起点に問いを立ち上げ、自ら課題解決に向かう主体的な学びの姿勢を引き出すことが重要である。
- ・小学校での学びの接続（学習規律や思考の流れ）を意識した展開を工夫するとともに、生徒と共に授業の在り方を振り返りながら、日々の授業の質的向上を図ることが大切である。
- ・生徒の理解度に応じた個別最適な学びを推進し、習熟度別の手立てや個別支援の時間を意図的に位置付けることで、学年全体の確実な学力定着を促すことが重要である。

「思考力・判断力・表現力」の育成

- ・課題解決的な学びを軸とし、図表等を用いた視覚的整理や協働的な対話活動を通じて、多角的な視点から思考を深め・広げる力を育むことが重要である。
- ・日常生活や数学的な世界の中から見いだした課題に対し、図・言葉・数式・表・グラフ等の多様な表現ツールを駆使して自力解決・共有する数学的活動を取り入れることが大切である。

領域別指導の重点

- ・全領域共通で実社会・実生活と結び付いた具体的な内容を示し、理解を促すとともに、量と割合の概念をはじめとする抽象的な内容を図示・モデル化して捉えさせることが重要である。
- ・「数と式」において、数量関係を的確に立式・モデル化する力を培うとともに、デジタルドリル等を活用した個別最適なドリルワークにより、基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図ることが重要である。
- ・「図形」において、具体物の操作や ICT 端末による動的シミュレーションを取り入れ、辺や角などの構成要素や定義・性質に基づき、「なぜその結論に至るのか」を論理的に説明する習慣を確立することが重要である。

令和8年度 全国学力・学習状況調査及び市総合学力調査
指導改善のポイント（中学校英語）

1 主な結果の概要

- 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることは、概ねできている。
- △社会的な話題に関して読んだことについて考えとその理由を書くことに課題がある。
- △日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。
- △記述式の問題について、正答率が低く、無解答率が高い。

2 課題のあった主な設問（全国学力・学習状況調査）

【大問10（2）】

中学生のインターネット使用について書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く

10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(2) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

<解答欄> ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ① 書き手の意見に対する自分の考えを書いている。
- ② ①の理由を書いている

多かった誤答例

条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの
(例)

- ・ I think your opinion is good. I think students will find is very good.
- ・ I agree with you. I think paper dictionaries is more useful than internet.

このように解答した生徒は、書き手の意見に対する自分の考えを書いているが、具体性に欠けたり、自分の考えとは反対の理由を記述していたりするなど、理由を書くことに課題があると考えられる

3 指導改善のポイント

生徒の実態把握

- ・各単元の導入において、生徒がその単元に関する背景知識や既習事項をどの程度身に付けているかを把握することが重要である。その上で、生徒の実態を踏まえ、既習事項をどのように活用させながら、単元を通してどのような知識・技能や表現力を身に付けさせたいのかを明確にし、指導に生かしていくことが求められる。

授業展開と学習形態

- ・既習事項と新たな学習内容との違いを生徒自身が捉え、既習事項を生かしながら、どのようにすれば相手に分かりやすく伝えることができるのかを思考することができるような学習展開が重要である。
- ・生徒の言語活動を充実させるために、目的・場面・状況を明確に設定し、実際のコミュニケーションを意識しながら、伝える内容や表現を工夫することができる学習活動を設定することが重要である。
- ・発表等の言語活動を行う際には、まず個人で考えたものをペアで考えや表現を確認し、その後グループで意見を交流するなど、学習形態を工夫することが重要である。さらに、他者の意見や表現を参考にして自分の考えを再構築する時間を設けた上で、再度全体で発表するなど、学びの過程を往還させることが求められる。こうした学習形態の工夫を通して、生徒が他者との関わりの中で考えを深め、表現をよりよいものへと改善しながら、自信をもって言語活動に取り組めるようにすることが重要である。

領域別指導の重点

- ・読む目的に応じて文章の要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、複数の領域を統合した言語活動を行うことが重要である。その際、単に自分の考えを表現するだけでなく、「なぜそのように考えたのか」という理由や根拠を明確にして伝えることを意識させることが大切である。また、生徒の発話に対して教師が「なぜそう考えたのか」「その理由は何か」などと問い返すことで、生徒が自分の考えを深め、理由や根拠を加えて表現することにつながる効果が期待される。こうした言語活動を継続的に行うことで、目的や場面、状況に応じて情報を整理し、自分の考えを形成するとともに、それを適切に表現する力を育成していくことが求められる。
- ・自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れることが重要である。
- ・聞いて得た知識や情報をメモに整理し、それを基に内容を口頭で要約して伝えたり、特に印象に残った内容や興味をもった情報について自分の考えを加えて伝えたりする活動を充実させることが重要である。また、聞いた内容について、自分がなぜそのように考えたのか、簡単な理由や根拠、具体例などを示して伝えたり、相手に質問したりするなど、聞いた情報を基に思考し、他者とやり取りする活動に取り組むことが必要である。